

協同の発見

きょうどうのはっけん

第 308号

2018.7



協同労働の協同組合の組織化

- ◎ 高成田 健 協同労働の働き方とは ～協同労働の法制化～
- ◎ 馬場 義竜 ワーカーズコープの起業実践と働き方の探求
- ◎ 自治体が進める協同労働を活かした地域づくり (編集: 荒井 絵理菜)
 - ・ 小林 千尋 第3回全国名人・達人サミット開催にあたりワーカーズコープに期待すること
 - ・ 成田 誠 ワーカーズコープと山梨県西桂町とのつながり
 - ・ 高橋 初子 西桂町におけるワーカーズコープの実践と第3回全国名人・達人サミットについて
- ◎ アメリカの事例から学ぶ働く場づくりとまちづくりー労働組合と労働者協同組合の連携を探索ー
2017年11月15日 第95回社会的企業研究会 開催報告から (編集: 相良 孝雄 記録: 菰田 レエ也、田井 勝)
- ◎ 日本労協連 準会員の紹介
 - ・ 株式会社創造集団440Hz 長井 岳 生きたいように生きることで、平和な文化をつくっていく
 - ・ アーク印刷株式会社 池田 竜平 会社も地域も人も、みんなで創って、みんなで育てる
 - ・ しあわせファクトリー 岡田 修 お金と仕事、「安心」を形にする専門家(家計・就労サポーター)
～地域への貢献を通じ地域と共に成長、発展を願って～

研究会報告

島村 博 労働者協同組合の法制化(大阪労働学校主催 2018年4月21日 研究会報告)

労協若手リーダーのページ

美谷島 広樹 “ゆるく”つながる大切さ

一般社団法人 協同総合研究所第6回(通算28回目)通常総会 報告

巻頭言

利根川 徳 本に必要な地域の力を育む協同労働



一般社団法人 協同総合研究所
JAPAN INSTITUTE OF CO-OPERATIVE RESEARCH

題字／藤原 桂州

協同の発見

第308号 2018.7

特集 協同労働の協同組合の組織化

目次

巻頭言

本当に必要な地域の力を育む協同労働	2
利根川 徳(協同総合研究所 専務理事)	

特集 協同労働の協同組合の組織化

・特集にあたって 相良 孝雄(協同総合研究所 事務局長)	4
・協同労働の働き方とは ～協同労働の法制化～	6
高成田 健(日本労協連 事務局長/会員)	
・ワーカーズコープの起業実践と働き方の探求	14
馬場 義竜(はんしんワーカーズコープ 代表理事/会員)	
・自治体が進める協同労働を活かした地域づくり	25
編集：荒井 絵理菜(協同総合研究所 事務局長)	
○第3回全国名人・達人サミット開催にあたりワーカーズコープに期待すること 小林 千尋(山梨県西桂町町長)	
○ワーカーズコープと山梨県西桂町とのつながり 成田 誠(労協センター事業団 東京三多摩山梨事業本部 本部長/会員)	
○西桂町におけるワーカーズコープの実践と第3回名人・達人サミットについて 高橋 初子(労協センター事業団 ばいかも事業所 所長/会員)	
・アメリカの事例から学ぶ働く場づくりとまちづくり	32
ー労働組合と労働者協同組合の連携を探るー 2017年11月15日 第95回社会的企業研究会 開催報告から 編集：相良 孝雄(協同総研事務局長/社会的企業研究会運営委員会) 記録：菰田 レエ也(一橋大学大学院博士後期課程/社会的企業研究会運営委員/会員) 田井 勝(合同会社 アーバンズ業務執行社員)	
・日本労協連 準会員の紹介	42
○株式会社創造集団440Hz 生きたいように生きることで、平和な文化をつくっていく 長井 岳(株式会社創造集団440Hz取締役)	
○アーク印刷株式会社 会社も地域も人も、みんなで創って、みんなで育てる 池田 竜平(アーク印刷株式会社代表取締役/会員)	
○しあわせファクトリー お金と仕事、「安心」を形にする専門家(家計・就労サポーター) ～地域への貢献を通じ地域と共に成長、発展を願って～ 岡田 修(しあわせファクトリー代表幹事)	

研究会報告

労働者協同組合の法制化(大阪労働学校主催 2018年4月21日 研究会報告)	58
島村 博(協同総合研究所/主任研究員)	

ワーカーズコープで働く若手リーダー紹介(Vol.18)

“ゆるく”つながる大切さ	66
美谷島 広樹(センター事業団 東海事業本部 事務局次長)	

一般社団法人 協同総合研究所第6回(通算28回目)通常総会 報告

労協連だより 高成田 健	111
研究所だより 相良 孝雄	112

巻頭言

本当に必要な地域の力を育む協同労働

利根川 徳（協同総合研究所 専務理事）

この度の西日本豪雨による災害を受けて、公的な支援の手が十分に届かない中、全国から続々とボランティアが被災地に入った。阪神・淡路大震災以来、多くの若者たちが被災地で支援活動をおこなう姿はもう当たり前のようになった。災害大国とも言えるこの国では、こうしたボランティア活動が当たり前のこととなるのは喜ばしいことだろう。

ところが、テレビニュースでキャスターが「連休が明け、ボランティア不足が深刻になっています」と話しているのを聞くと、これには強い違和感を持たざるを得ない。深刻なのは、ボランティアの人数が足りないことなのだろうか。広域で甚大な災害に対して、公的な機関の活動だけでは手が足りないということは理解できるが、ボランティアはあくまで自発的な活動でしかない。

しかし、直ぐに思い当たったのは、そもそもこの社会は、市民の自発的な活動の支えなしにはもはや成り立たない、維持できない構造になっているのではないかということである。災害時にはこのことが露わになるが、おそら

く日常的にも同じようなことはたくさんあるのではないか。行政サービスが行き届かない地域が広がり、誰が支えていくのかよくわからない不明瞭な領域が広がっているように思う。

我が国ではこの間、福祉など公的なサービスの市場化・営利化が進められてきたが、一方で市場化できない領域も見えてきている。災害時のボランティア活動などは最たるものだが、たとえば高齢者福祉における地域包括ケアシステムの構想では、「互助」の重要性が強調され、介護予防・生活支援の担い手として、ボランティアや地域住民の取り組みを強化することが求められている。市場化できないものは地域のボランティアでというのは、ずいぶん虫のいい話ではないか。

明らかなことは、市場原理だけではこの社会を支えることはできないということである。つまみ食いのように必要な時だけボランティアを利用するというような考えでは、おそらく社会を底から支えるような地域の基礎的な力は育っていかないのではないかと思う。

しかし、地域社会を支える主体とな

る市民の自治力を高めていくような政策は残念ながら見当たらず、相変わらず経済成長だけが幸福への道であるかのごとき議論がまかり通っているのはどうしたことだろう。

さて、私たちが求めてきた「協同労働の協同組合法(仮称)」が、いよいよ実現されようとしている。法制化の主要な目的は、住民の協同による地域に必要なとされる仕事おこしを通して、持続可能な地域づくりに貢献していくことであり、誰もが排除されず人間らしく働くことができる完全就労社会の実現にあると説明されてきた。

しかし、協同労働が本当にその真価を発揮するのは、事業・運動を通して市民の自治力を高めることにあるのではないかと考える。ICAの協同組合原則の第4原則に、「協同組合は、組合員が管理する自治的な自助組織である」ことが書かれているが、ワーカーズコープの「よい仕事」の実践は、内部の組合員の自治力だけでなく、外部に開かれていき地域の自治力を高めることに役立っているように思う。

ワーカーズコープが事業の拡大に合わせて、日本社会連帯機構を立ち上げて地域の人たちといっしょに社会連帯活動を展開してきたことはある意味必然であったと考える。協同労働の実践

には、地域住民、市民との連帯をつくり出し、困難を抱える地域の課題解決に向けて取り組む主体を地域に生み出す力がある。

私は一年前までセンター事業団で事業本部長を務めていたが、多くの事業所の組合員たちが決して楽ではない日々の仕事を抱えながらも、地域に出て地域の人たちとつながり、フードバンク活動、障がい者問題、地域の居場所づくり、ヒューマン・ライブラリーなど多様な地域課題をテーマにした社会連帯活動に地域の人たちと共に取り組む姿に接してきた。

再びボランティアの話に戻るが、2020年東京オリンピック・パラリンピックでは11万人のボランティアを募集するとのことだ。そこでは国民の一体感が演出されることになるのかもしれないが、そこには市民の自治力を高めるという視点はなさそうだ。

まもなく法制化は実現され、ワーカーズコープは広く市民のものとなるだろう。多くの人たちが未来への希望を失い閉塞感が漂うこの社会にあって、一人ひとりが主体者として立ち上がり、協同・連帯の力で社会をつくり変えていく原動力に協同労働になることを期待し、共に歩んでいきたいと思う。

協同総合研究所は、労働者、市民が自らの力で自律的に仕事と生活の豊かさを求める活動を支援するシンクタンクです。わが国にも「大量失業の時代」が到来する中で、労働者、市民が自主的に仕事おこしをする労働者協同組合（ワークスコープ）への注目が増えています。研究所は、わが国唯一の「労働者協同組合」に関する専門研究機関です。



研究活動をネットワークし、蓄積された情報を資源として支援する「協同の発見」を会員のみなさまに毎月お届けいたします。